



平成30年度予算要望について

平成29年8月25日、自由民主党農林食料戦略調査会・農林部会・農政推進協議会合同会議が開催され、本協会より平成30年度農林水産省予算の概算要求に当たり要望書を提出しました。

(要望書)

平成29年8月25日

自由民主党農林食料戦略調査会・
農林部会・
農政推進協議会合同会議座長 殿

平成30年度予算についての要請

一般社団法人 日本養鶏協会
会長 齋藤 利明

我が国養鶏産業の振興につきましては、日頃より格別のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

また、この度の日EU経済協定大枠合意にご尽力頂き、深く感謝いたします。

さて、我が国鶏卵産業は、近年、卵価が比較的安定的に推移していることから、なんとか経営が継続されているところでありますが、生産資材の高止まりや環境問題への配慮等コスト高への対応に苦慮している現状にあります。

つきましては、平成30年度予算の概算要求に当たりましては、以下の点について特段のご配慮をお願いします。

1. 鶏卵生産者経営安定対策事業については、事業を確実に継続するとともに十分な予算を確保すること
2. 畜産クラスター事業等競争力強化に係る事業において、鶏卵産業においても規模の大小等各事情に応じた利用しやすいものとする



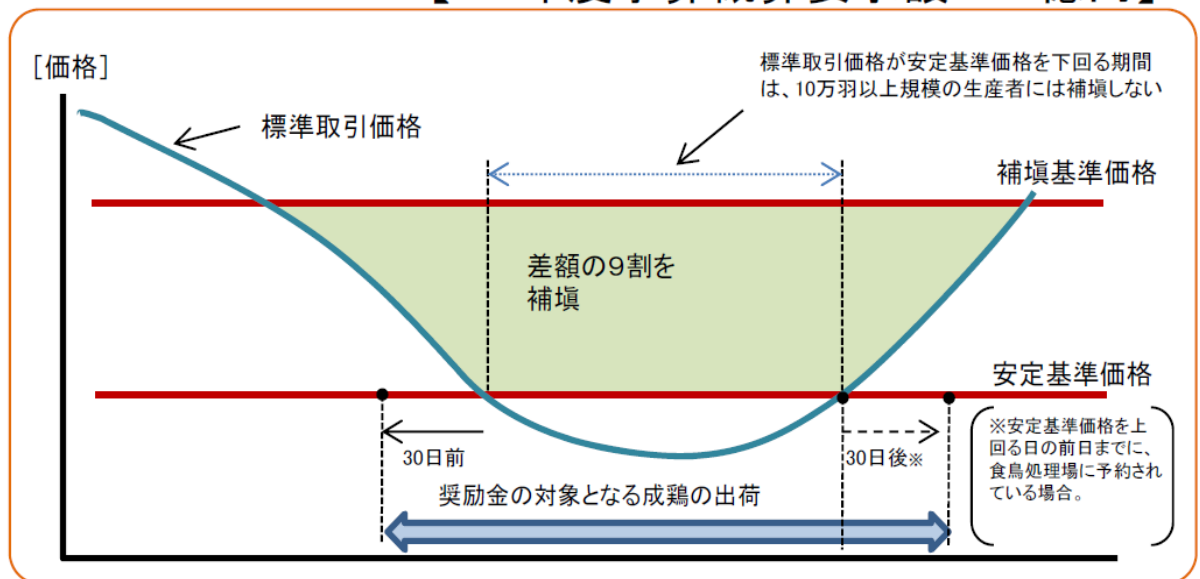
平成30年度農林水産予算概算要求について

8月31日、農林水産省より、平成30年度農林水産予算概算要求の概要について、公表されました。当協会関係事業の概要は以下の通りです。

1. 鶏卵生産者安定対策事業

鶏卵価格が低落した場合に価格差補填を行うとともに、更に低落した場合、成鶏の更新に当たって長期の空舎期間を設けて需給改善を図る取組を支援する「鶏卵生産者安定対策事業」については、昨年の予算額と同額の49億円の要求となっています。

【30年度予算概算要求額:49億円】



2. 農林水産業の輸出関係事業

輸出関係予算では、農林水産業の輸出力強化を支援する「海外需要創出等支援対策事業」（前年度の32億円から48億円）及び「輸出環境整備推進事業」（前年度の3億円から8億円）ともに増額要求となっています。

<農林水産省の関連ページ>

<http://www.maff.go.jp/j/budget/170831.html>



飼料の安全確保の徹底について

農林水産省より、農家へ配合飼料を納入する飼料運搬車上で、抗菌性飼料添加物無添加飼料に抗菌性飼料添加物添加飼料が混入したと思われる事例報告を受け、本事案のような混入が起こることがないように、飼料の安全確保の徹底について、会員あて周知依頼がありましたので、お知らせ致します。

29消安第3044号

平成29年8月29日

一般社団法人日本養鶏協会会長 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

飼料の安全確保の徹底について

飼料の安全確保については、飼料の輸入、製造又は販売に係る事業者が自ら工程管理に重点を置いた手法を導入するための指針として、「飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドラインの制定について」（平成27年6月17日付け27消安第1853号農林水産省消費・安全局長通知）を発出し、事業者に対し、同ガイドラインに基づく工程管理の普及を推進してきたところです。

こうした中、平成29年8月、農家へ配合飼料を納入する飼料運搬車上で、抗菌性飼料添加物無添加飼料（以下「無添加飼料」という。）に抗菌性飼料添加物添加飼料（以下「添加飼料」という。）が混入したと思われる事例の報告がありました。

本事案は、無添加飼料を農家のタンクに投入する際に、添加飼料を積載したタンク下部の排出ゲートが何らかの原因で閉まりきっていなかったために、添加飼料が少量ずつ漏れ出し、混入したと考えられます。

つきましては、貴会（組合）傘下の業者、組合員、農家等が自ら所有する飼料運搬車の点検・整備を行うとともに、飼料輸送の委託を行う場合、その運送会社に対して、飼料運搬車の点検・整備が適切に行われているかどうかの確認を行っていただくことについて、貴会会員（組合員）への周知をお願いします。

また、万が一排出ゲートの破損等が起こったとしても、本事案のような混入が起こることがないように、無添加飼料と添加飼料を同時に積載しない等の対策を講じることを飼料の運送会社に対して要請していただくことについて、貴会会員（組合員）への周知を併せてお願いします。



「全国協議会・セミナー」開催のお知らせ

日本成鶏処理流通協議会では、カンピロバクター対策などの食品衛生管理に関する知識の向上を図るため、講師に家政大学の森田教授、厚生労働省及び農林水産省の担当者をお招きし、当協会との共催により、全国協議会セミナーを開催致しますので、お知らせします。

1. **開催場所** : 長野県北佐久郡軽井沢 「ホテルマロウド軽井沢」
2. **日 時** : 平成29年10月20日(金) 受付 13:00 ~
3. **内 容** :
 - ・「カンピロバクター対策について」
講師：東京家政大学教授 森田 幸雄教授
 - ・「HACCPへの取り組み状況」
講師：厚生労働省 監視安全課 担当官
 - ・「今冬季の鳥インフルエンザ対応策」
講師：農林水産省 動物衛生課 担当官
 - ・「採卵相場の動向と空舎延長事業の発動」
講師：農林水産省 食肉鶏卵課 担当官
 - ・「鶏卵生産地間における生産量の増減」
講師：(一社)日本養鶏協会 専務理事 廣川 治
4. **定 員** : 50名程度 (定員に達し次第締切)
5. **申込方法** : 7. 問合せ先に、お電話にてお申込みください
6. **申込締切** : **平成29年9月29日(金)**
7. **費 用** : セミナーの参加は無料
8. **問合せ先** : 日本成鶏処理流通協議会 (事務局：六ッ美養鶏組合内)
TEL：0564-43-2475 FAX：0564-43-5526



「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」 実施のお知らせ

(一社)日本養豚協会では、当協会の協力のもと「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を実施することになりましたので、ご紹介いたします。

ご興味がある方はHP・パンフレット等をご覧ください、参加をご検討ください。

1. 目的

飼料用米を生産する農家と連携しながら従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰し、その取組・成果を広く普及する。

2. 応募資格

- (1) 国産の飼料用米を活用した畜産物等の商品として、従来品とは異なる商品名で販売されていること。
- (2) 国産の飼料用米を活用した畜産物に給与される飼料総数量（年間）に占める国産の飼料用米の割合が、採卵鶏5%以上であり、かつ年間の飼料用米使用実績が1トン以上であること。

3. 応募及び必要書類の提出

応募を希望する事業者は、11月末日までに参加申込書を飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト事務局へ提出ください。

4. 表彰式

平成30年3月上旬（東京都内）

5. 紹介HP（申請書様式も掲載されております）

<http://okome-sodachi.jp/contest2017.html>



飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発

募集中! 平成29年8月~11月末



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬(東京都内)

●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)
H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス
→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>

農林水産省補助事業 平成29年度米活用畜産物等全国展開事業



「エコフィード認証等取得支援者養成講習会」開催のお知らせ

(公社)中央畜産会より、今後、増加が見込まれるインバウンド消費を見据え、食品残さの飼料化及び利用に関する専門家の参画を得て、エコフィード認証等の取得を目指す事業者及び畜産物生産者等を対象とした養成講習会の開催について、会員あて周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

1. 主催 : (公社)中央畜産会
2. 開催場所 : 神奈川県 相模原市 けやき会館 3階セミナールーム 1
愛知県 稲沢市 リーフウォーク稲沢
3. 期間 : 神奈川県 平成29年9月25日(月)～26日(火)
愛知県 平成29年9月28日(木)～29日(金)
4. 研修内容 : 1日目 : 講義
法令、認証制度、背景、取組み、
エコフィード利用畜産物の安全性
2日目 : 現地視察
エコフィード製造業、利用農家、畜産物販売店
5. 定員 : 20名程度 (先着順)
6. 申込方法 : 「エコフィード認証等支援者養成講習会受講申込書」を
(公社)中央畜産会あて郵送・FAX・メールのいずれかで提出ください
7. 申込締切 : **平成29年9月15日(金)必着**
8. 費用 : 主催者負担 (要 : 旅行行程書・宿泊証明書の申請)
※2日目の昼食代(1,500円程度)は実費負担となります
9. 講習詳細 : <http://jlia.lin.gr.jp/archives/1515>
10. 問合せ先 : (公社)中央畜産会 経営支援部 今野・御代田・中胡
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2
E-Mail : shien@sec.lin.gr.jp
Tel. 03-6206-0843 FAX. 03-3256-9311



「畜産環境対策技術研修会」開催のお知らせ

(一財) 畜産環境整備機構より、堆肥化技術など畜産環境対策の基礎的な知識を習得する技術研修会の開催について、会員あて周知依頼がありましたのでお知らせいたします。

今年度は2か所において講座毎に一日、連続して三日間実施されますので、畜産環境保全について関心のある方はご参加ください。

1. 主催 : (一財) 畜産環境整備機構
2. 開催場所 : 東京都中央区 コルマ京橋ビル
福岡県福岡市 福岡県中小企業振興センター
3. 期間 : 東京都 平成29年10月3日(火) ~ 10月5日(木)
福岡市 平成29年11月28日(火) ~ 11月30日(木)
4. 研修内容 : 畜産環境対策の基礎的な知識について
5. 研修対象者 : 畜産環境保全について関心のある方
6. 定員 : 30名程度 (会場の収容人数による)
7. 申込方法 : 「受講申込み書」を、(一財) 畜産環境整備機構あて郵送
またはFAX送信のいずれかで提出ください
8. 費用 : 各1講座 20,000円 (消費税込み)
但し、三日間連続受講の場合50,000円(消費税込み)
9. 受講証明書 : 講座ごとの発行となります
10. 問合せ先 : (一財) 畜産環境整備機構 管理・技術部 原田光久
〒105-0001 港区虎ノ門 5-12-1 ワイコービル3階
TEL: 03-3459-6138 FAX: 03-3459-6315
11. 研修詳細 : http://www.leio.or.jp/pub_train/training/



「第14回日本たまご研究会」開催のお知らせ

毎年、京都で開催されている「たまご研究会」開催についてお知らせします。

1. **開催場所** : 京都女子大学 B校舎 501 教室
2. **日 時** : 平成29年11月1日(水) 13:20 ~
3. **内 容** :
 - ・「鶏の歩んだ道」 広島大学名誉教授 山本義雄 先生
 - ・「近の鶏卵（近大発たまご）の開発」
近畿大学薬学部准教授 多賀淳 先生
 - ・「卵かけご飯-その発祥からTKGまで-」
たまご博物館 館長 高木伸一 先生
 - ・「卵の鮮度と卵黄膜強度」
京都女子大学教授 八田一 先生
 - ・「卵黄抗体で鯉の穴あき病予防」
九州大学准教授 杉本智軌 先生
4. **申込方法** : 氏名、〒住所、勤務先、所属、Tel 番号と E-mail アドレスを明記し、日本たまご研究会事務局 nihontamaken@gmail.com にメールで申してください
5. **参加料** : 2,000 円 (学生無料)

協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内
該当事業のページが開きます](#)

各事業の報告

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

① 鶏卵価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成26年度	160,792
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353

② 8月の標準取引価格 181.33 円/Kg
(補填価格 5.103 円/Kg)

平成29年度補填基準価格 187 円/Kg

平成29年度安定基準価格 165 円/Kg



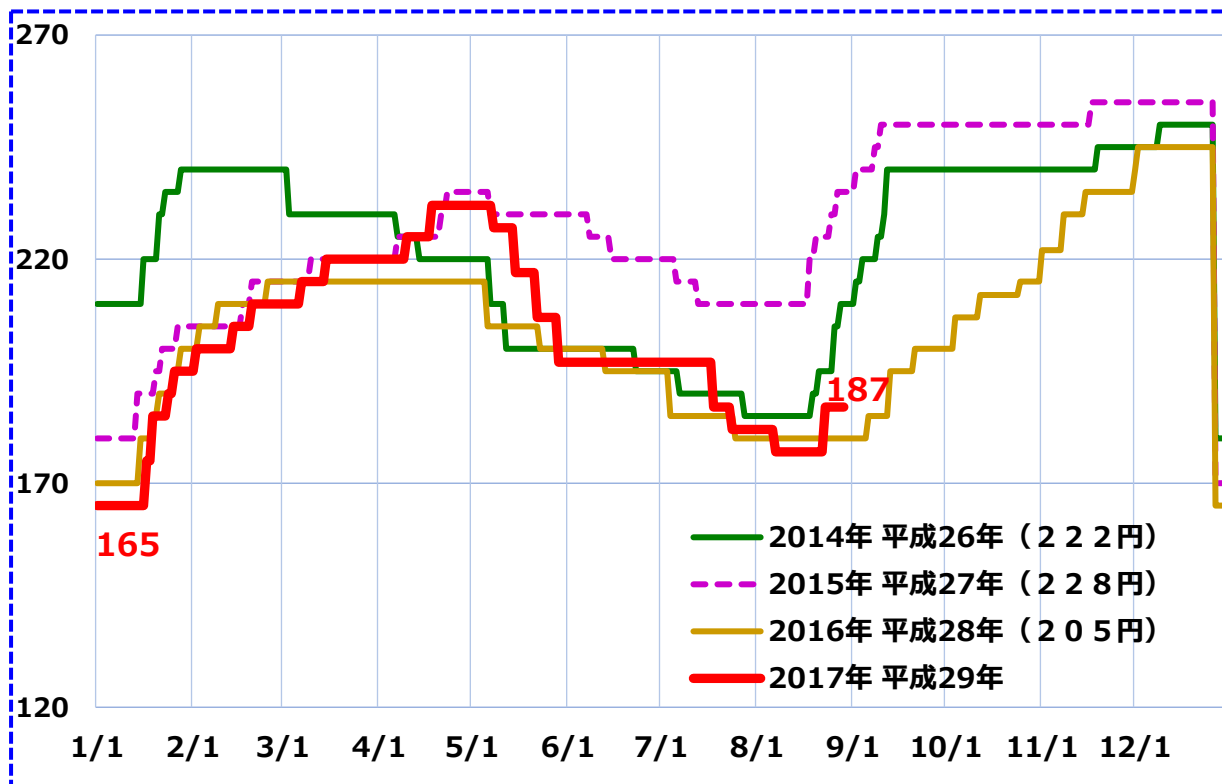
統計データ

【相場動向】 過去10年間の7月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成20年	193	212	179
平成21年	154	178	144
平成22年	177	208	154
平成23年	170	203	159
平成24年	160	183	149
平成25年	157	186	147
平成26年	190	213	179
平成27年	213	238	204
平成28年	184	213	174
平成29年	191	215	176
平均値	179	205	167

平成29年7月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値は過去10年で3番目に高い191円、高値は2番目に高い215円、安値は4番目に高い176円と10年間の相場では高値をキープしています。

【鶏卵相場推移 2014年～2017年 東京全農Mサイズ 円/Kg】



鶏卵相場は8月に入ると直近4年間で最安値の177円まで値下がりしましたが、20日を過ぎて187円まで値を上げています。



日鶏協ニュース

平成29年8月号
一般社団法人 日本養鶏協会

【鶏卵関係主要計数】平成29年6月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	本年	前年
28年 7月	8,532	96.6%	438	94.8%	864	105.7%	184	213
8月	8,471	112.9%	454	106.9%	811	100.8%	180	219
9月	9,184	108.8%	446	97.9%	847	105.5%	192	247
10月	9,140	103.1%	464	96.9%	908	106.6%	211	250
11月	8,837	103.7%	478	103.7%	875	104.0%	231	252
12月	9,213	101.6%	524	100.5%	909	106.9%	244	245
29年 1月	9,276	111.5%	457	101.9%	850	102.0%	179	182
2月	8,277	96.2%	450	95.8%	814	96.3%	204	209
3月	9,748	105.5%	513	103.1%	877	101.4%	217	215
4月	9,112	103.8%	468	95.9%	907	102.0%	227	215
5月	9,029	96.1%	497	106.6%	890	100.1%	216	204
6月	9,759	105.8%	474	102.1%	843	97.2%	197	197
1年間小計	108,578	103.8%	5,663	100.5%	10,395	102.4%	207	221

- ・雛餌付羽数は、過去一年の中で最も多い976万羽となり、前年同月比も5.8%増で推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、前年同月比2.1%増となりましたが、年間の出荷量はほぼ前年並で推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、843グラムで前年同月比2.8%減となりましたが、年間では2.4%増で推移しています。
- ・これらの統計からすると、供給サイドでの大きな落ち込みも無く、家計消費などの需要も堅調な展開となっています。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2017年9月4日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

